

あいづわかまつ 文化財だより

発行
会津若松市教育委員会
編集
会津若松市教育委員会文化課
〒965-0871 会津若松市栄町5番17号
☎0242-39-1305

第18号
平成23年4月1日
(2011)

みんなで守ろうみんなの文化財



平出美穂子さんの講演では、文献史料に残る武士の出陣式の儀式食、籠城食、斗南藩の食事を再現。栄養学や食事療法の観点からも籠城食について説明されました。



座敷の柱に残る弾痕

「会津若松市のイメージは？」と聞かれたら、「歴史と文化のまち」と答える人も多いでしょう。「歴史と文化」を未来へつなぎ伝える大きな役目を担っているのが文化財です。文化財を守るための取り組みを紹介します。

滝沢本陣見学デー

【二箕町八幡】

国史跡旧滝沢本陣には、歴代の会津藩主専用の門「御入御門」があります。今回、この御門や周りの塀を修理しました。完成後の9月26日、史跡を無料で公開する「見学



いろいろ端で昔語りをする村岡トキ子さん。会津に伝わる「身しらず柿の話」などが情緒豊かに語られました。

デー」が開催されました。「見学デー」では、重要文化財の建物のうち会津藩主が滞在した「御座之間」で食文化研究家平出美穂子さんによる会津藩士の食生活についての講演がありました。白虎隊の出陣が決定されたと伝えら



つかの間のお殿様気分でご入御門をくぐります。修復したばかりの茅葺が黄金色に光っていました。

れる場所で当時の武士の食事や籠城食が再現されました。また、滝沢村郷頭としての生活文化が色濃く残る主屋のうち、いろいろのある「おめえ」では、会津の言い伝えを温もりある会津弁で語る「昔語り」が行われました。晴れ渡る青空の下では、建築士の解説を聞きながら、本陣の敷地を巡りました。今回特別に藩主と同様のルートで御入御門をくぐって前庭を横切り、本陣へ入りました。濡縁を上ると座敷や湯殿、式台など本陣ならではの間取りを見ることが出来ます。この間取りは幕末の指図控えとほぼ一致する貴重なものです。趣ある文化財に囲まれた一日となりました。

院内御廟を歩く

【東山町】

8月8日に国史跡「会津藩主松平家墓所（通称：院内御廟）」の歴史散策会を開催しました。院内御廟は、全国にある大名藩主墓所の中でも大きさや形態などが特に優れています。実際に御廟を歩きながら、その歴史と価値、さらに郷土の歴史や身近にある文化財の大切さを市民の皆さんが感じられる機会となりました。

当日は親子連れなど約60人が集まり、文化課職員の説明とともに歴代藩主の墓や家族の墓、それぞれの墓のつくりの違いなど熱心に見てまわりました。

23年度も夏休みに散策会を行います。会津藩が作りあ



散策すると、その広大な規模が感じられます。

げた大規模な遺構を体感しながら、郷土の歴史を学べる場です。ぜひお出かけください。

御薬園

【花春町】

国名勝「会津松平氏庭園」では、江戸時代の景色に近づけるための修復工事を行っています。平成17年度からの池護岸修復により、現在では園内に建つ御茶屋御殿から「心字の池」を眺めると往時に近い姿が再現されています。



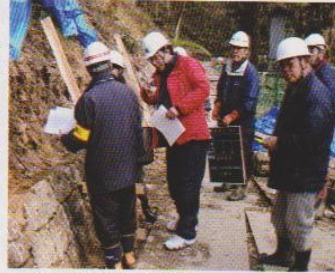
修復された護岸(奥)の前を歩くカルガモの親子(7月)。これも御薬園の風物詩の一つです。

御薬園は、季節によって花や風景がさまざまな表情を見せ、どの時期に訪れてもゆったりとした趣のある時間を過ごすことのできる文化財です。四季の移ろいを感じに、ぜひ訪れてみてください。

院内御廟

【東山町】

平成13年に市の所有となつた院内御廟をより安全に見学できるようにの取組みを行っています。



昔の石積手法を調査し、より良い修復方法について現場で入念に打ち合わせします。

三代・五代・六代・七代・九代の各藩主の墓が並ぶ入峰墓所は、御廟の中でも会津藩の石材加工や土木技術が際立つ荘厳な景観の区域です。現在、崩壊の恐れのある石垣などを往時の姿に修復することで、神聖な環境を引き継いでいきます。

高瀬の大木

【神指町高瀬】

平成21年度から3年計画でケヤキの樹勢回復に取り組んでいます。



木道と木柵の設置イメージ

2年目は土壤改良の他、見学者用の木道と木柵の設置に着手しました。ケヤキの周りを歩いて地面が踏み固められると根の生育が妨げられるためです。来年には、木道は四阿とつながる予定ですので、ケヤキをご覧になる際は、四阿やその南側の広場をご利用ください。

まもる

市では、文化財を次世代へ引き継ぐための取組みを行っています。ルールを守って文化財に親しむことで、より良い保護環境が生まれます。

院内御廟・四代藩主龜石

文化財防火デー

中畑陣屋 県重要文化財【東山町】



1月26日は、昭和24年に法隆寺金堂壁画が焼損した日で、昭和30年この日を「文化財防火デー」と定め、今年では57回目となります。貴重な文化財を火災などから守るために、連携・協力して、全国的に防火運動を展開しています。

貴重な国民的財産である文化財への理解と愛着を深め、地域の文化財を後世へ保存・継承していきましょう。

まなぶ

文化財をおしえて見えてくる会津の歴史。新しい会津若松の発見が広がります。

神指城跡写真(県立博物館)

講演会&報告会

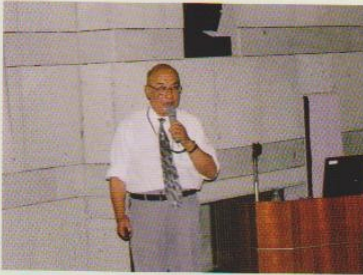
ふるさと考古資料

福島県立博物館で展示中の「ふるさと」の考古資料1会津若松市遺跡探訪」を記念して講演会ならびに報告会が7月31日に行われました。

記念講演会では、穴沢啄光前福島県考古学会会長が「大和の大王墓と会津大塚山古墳」と題して、ご自身が立ち会われた古墳発掘現場でのエピソードや奈良県を中心とする畿内の古墳の特徴を紹介されました。

昭和39年、会津大塚山古墳が発掘され「三角縁神獣鏡」など多くの副葬品が発見された際の驚きが、古墳研究のきっかけとなったそうです。大型古墳が多く点在する奈良盆地を中心とする畿内地方へ足を運び、実際に古墳の発掘現場で得た歴史観についてユーモアを交えて説明しました。また、福島県立博物館学芸員からは研究報告2件がありました。会津大塚山古墳の被葬者が初期大和朝廷と密接な関係を持っていた人物であったと出土資料から推測されること、大塚山古墳に南斜面にある大塚山横穴墓群から出土した「銀象嵌刀」の紹介などがありました。

さらに、市の担当者により発掘調査からみえてくる会津若松の歴史を報告し、歴史深い会津に思いを馳せた一日となりました。



穴沢前会長による講演。奈良県ホケノ山古墳や黒塚古墳について紹介されました。



多くの市民の方が来場し、熱心に耳を傾けました。

～文化財案内～

※見学には入場料が必要な文化財もあります。

■高瀬の大木 (ケヤキ)



神指城跡の土塁の上に立つケヤキ。根元の周囲約12.5m、樹高約16mの巨木として全国有数。

■赤井谷地沼野植物群落



全国的にも珍しい陸化型の高層湿原。地下には3m以上ドーム状の泥炭層があり学術的にも貴重。

■旧中畑陣屋



西白河郡矢吹町中畑にあった陣屋で、代官が詰めていた。現在は会津武家屋敷内に移築保存されている。

■旧滝沢本陣



歴代藩主の参勤交代などの際、休息するための本陣に使用された。古民家としては東北地方で最も古い。

■会津藩主松平家墓所【院内御廟】



約15haの敷地の中に会津藩主二代から九代までの墓がある。二代が仏式のほかは神式で葬られている。

■会津松平氏庭園【御薬園】



会津藩三代藩主の頃、元禄9年(1696)に整備され、薬用人参等の栽培を奨励したため、御薬園と呼ばれている。

赤井谷地

【湊町赤井】

国天然記念物 赤井谷地には、200種以上自生する植物のうち、樺太と同じ北方系の植物が38種あります。これは、氷河期に南下した植物が、氷河期が過ぎても残ったため、日本列島では、赤井谷地が北方系植物の南限となっています。

赤井谷地周辺では、オオハンゴンソウが繁茂するようになりまし。オオハンゴンソウはキク科の植物で、夏に黄色い花を咲かせます。生命力が強く、在来植物の生態系に影響を及ぼす恐れがある植物です。市では、赤井谷地の植生を守るため除去作業を行っています。オオハンゴンソウ



2mを越す高さにもなるオオハンゴンソウ。除去には何年も続けて行う必要があります。



赤井谷地の在来種。
左)モウセンゴケ 右)ホロムイイチゴ

は地下茎から繁殖するため、根こそぎ除去し焼却処分する必要があります。オオハンゴンソウを見つけた場合には、在来種の保護のための除去をお願いします。

会津若松市遺跡探訪

福島県立博物館共催テーマ展
「ふるさとの考古資料展」

会津若松市内には約500の遺跡があり、古代より多くの人々が生活していました。土器などの出土遺物は往時の生活を如実にあらわしています。

発掘調査の成果から当時の生活や会津若松の歴史をご覧ください。



開期 平成23年5月15日まで
会場 福島県立博物館 部門展示室
「考古」常設展示入場料が必要です。

北日本近世城郭検討会

1月30日、福島県立博物館で「神指城跡と東北地方諸城の様相」をテーマに行いました。鈴木啓会長が「館から都市へ」と題して講演しました。7世紀以降律令政府が東北地方の蝦夷を治めるために築いた城柵から、館、城へと続く建築の系譜、城と城下町を作ること、連動した都市計画であり、その根底には陰陽学の原理があることなどが紹介されました。



鈴木啓会長による講演。城と城下町の都市整備についてわかりやすく説明されました。

また、平成21年の神指城跡試掘調査結果から、築城工法や築城の意味、築城が中止された後の歴史についてそれぞれ研究成果が発表され、築城途中の城跡だからこそ歴史的に貴重な遺跡であると改めて理解を深めました。

さらに、各自自治体の担当者から米沢城・亀ヶ崎城、山形城、仙台城跡・若林城跡の発掘調査成果の報告があり、中世から近世にかけて築城方法について幅広く学べる機会となりました。



財福島県文化振興事業団本間宏さんによる講演。神指城築城の真相に迫りました。

講演
シ

郡山遺跡



門田条里制跡出土 須恵器「すり鉢」

今から12000〜13000年前の奈良〜平安時代、私たちが住む会津地方は、会津郡という地域でした。その政治の中心である役所は郡衙と呼ばれ、現在の河東郡郡山地区が会津郡衙の所在地ではないかと考えられています。

21年度の調査では、塀跡と考えられる柱列と掘立柱建物跡数棟が見つかり、郡衙を構成する施設の一部と考えら



柵と考えられる柱穴に囲まれた内側に建物跡が見つかりました。(調査区を上空から)



丁寧に遺跡を掘り進め、遺跡の情報を収集します。

れました。このエリアは、元々その周辺よりも小高い地形で調査範囲外にも柱跡が広がっているため、22年度にはそのエリアを拡張し、構造を確認する調査を実施しました。東西方向に並ぶ柱列のつながりを調べたところ、東側で直角に北に曲がっていました。この柱列に区画された内側には、平安時代に建てられた倉庫などの建物跡が複数棟並んで発見されました。塀などで区画された内側に建物や並んで建てられている様子は、他地域の郡衙の調査例からすると、郡衙の役人の居所、国からの役人等を宿泊させる施設といった性格の建物が考えられます。

今年度、さらにその周辺を調査し、この施設の詳細を明らかにする予定です。

門田条里制跡

門田条里制跡は門田町の籬田から徳久、北御山、堤沢一帯の約250畝に及ぶ、古代の集落や水田の遺跡です。農業基盤整備に先立ち、総合運動公園の南側約25畝を対象に試掘調査を行いました。今回の調査では、古代の竪穴住居跡や柱穴と思われる遺構を始め、当時使われていた須恵器や土師器が見つかりました。



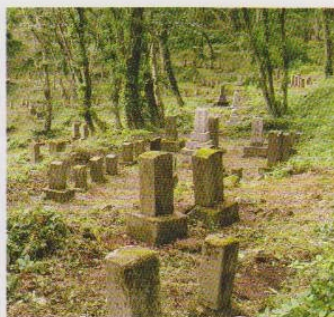
遺跡推定範囲に複数の細い穴を掘って設定し調査します。

試掘調査は、遺跡内で開発が行われる前に、どの範囲にどんな遺構があるのか把握することを目的としています。発掘調査とは違って一般の人が目にする機会はほとんどありませんが、調査で得られたデータは、今後予定される工事のスムーズな進行と遺跡の保存を両立させるための重要な資料となります。

見つける



「石部桜」【一箕町】



旧会津藩大窪山共同墓地【門田町黒岩】

寛文4年(1664)、会津藩士の共同墓地として整備され、その後約200年間に約4,000基の墓が築かれました。埋葬者には儒学者、武芸者、神道家などを始めとして会津藩を支えた人々が眠っています。約8畝の大規模な敷地の中に当時の埋葬形態を今日まで残している藩制墓地は、全国的にも珍しく、生きた郷土史を学べる場所となっています。市では、例年草刈り作業を実施し、文化財の保全に努めています。

市内でよく息音が確認されるニホンカモシカは、特別天然記念物に指定されているほか、ごくまれにオジロワシやマガンといった動物



ニホンカモシカ

地域を定めない天然記念物・野生動物

物も市内で確認されることがあります。天然記念物の動物が死んでいた場合、文化庁に届出をするようになっていたため、埋葬作業は文化課で行っています。市内で天然記念物に指定されている動物の死体を発見された場合は、文化課までご連絡ください。なお、それぞれの動物の写真や解説は、文化庁のホームページでご覧いただけます。